



TITLE:

2015年の総括

AUTHOR(S):

朝倉, 彰

CITATION:

朝倉, 彰. 2015年の総括. 京都大学瀬戸臨海実験所年報 2017, 29: 2-3

ISSUE DATE:

2017-05-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/225009>

RIGHT:

2015 - the Year in Review

2015 年の総括

2015 年度は、教育関係共同利用拠点事業の第一期 5 カ年の終了年でした。この実験所は、日本でも特に海洋生物相の豊かな場所に立地しており、その特徴を活かした、より充実した臨海実習や共同利用のために、この教育拠点活動を推進してきています。2015 年度は 5 つの公開臨海実習および 10 の共同利用実習としての臨海実習を行いました。今後、当実験所を利用する方々の利便性が向上されるよう取り組んでいきたいと考えています。

2015 年度の人事の動きについてですが、白眉センター特定助教の加賀谷勝史さんを連携助教として受け入れました。5 年間の任期です。加賀谷さんの専門は動物生理学、神経行動・生理学です。特に甲殻類を材料として自発性行動の発現・調節の神経機構の研究や超高速行動の発現・調節機構と進化の研究をされています。また教育関係共同利用拠点事業で雇用されていた岡西政典研究員が茨城大学に助教として転出され、代わりに国立科学博物館より佐藤崇さんを研究員として採用しました。新しいメンバーを迎え、より一層の研究と教育の充実に務めてまいりたいと思っております。

当実験所にある京都大学大学院理学研究科海洋生物学分科の修士課程および博士後期課程にそれぞれ大学院生が 1 名入学しました。また年度末には、修士課程の大学院生 1 名が修士号を取得しました。この学生は、京都大学の学位授与式で理学研究科の総代に選ばれ、山極壽一総長より学位を受け取りました。また、博士後期課程の学生 1 名が博士号の学位を取得し、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）に研究員として就職しました。

当実験所では「瀬戸海洋生物学セミナー」と称して、外来の研究者に講演していただく形式で公開セミナーを実施しています。2015 年度は、Chang-Feng Dai 教授 (Institute of Oceanography, National Taiwan University) の講演会が行われました。

2014 年度から、当実験所と京都大学本学のラボとの合同ゼミをスタートさせ、2 年目を迎えました。2015 年度は 5 月に理学研究科の動物行動学研究室と、11 月に農学研究科海洋生物増殖学分科



野、農学研究科海洋生物環境学分野、舞鶴水産実験所と、2016年2月に農学研究科海洋生物増殖学分野、農学研究科海洋生物環境学分野、舞鶴水産実験所福井県立大学海洋生物資源学部との合同ゼミを行いました。今後、この合同ゼミの一層の充実を計っていきたいと考えています。

当実験所に併設されている白浜水族館が2014年に22年ぶりに全面改装されました。それ以前は年間6万人の入館者であったところが、2015年度には7万人台になり、改装の効果が現れています。また水族館では、夏休みと冬休み、春休み期間中に毎日「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」を行いました。また夏休み中の月・火・水曜日に「大水槽のエサやり体験」を実施し、社会教育・生涯学習の充実に務めております。

2016年3月31日

朝倉 彰

京都大学瀬戸臨海実験所所長